



## T コマンド

この章では、T で始まる Cisco NX-OS セキュリティ コマンドについて説明します。

### tacacs-server deadline

応答性について到達不能（非応答）TACACS+ サーバを監視する定期的な時間間隔を設定するには、**tacacs-server deadline** コマンドを使用します。非応答 TACACS+ サーバのモニタリングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**tacacs-server deadline *minutes***

**no tacacs-server deadline *minutes***

#### シンタックスの説明

*time* 時間間隔を分で指定します。範囲は 1 ~ 1440 です。

#### デフォルト

0 分

#### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

#### サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

時間間隔の設定をゼロにすると、タイマーがディセーブルになります。個別の TACACS+ サーバのデッドタイム間隔がゼロ（0）よりも大きい場合は、サーバグループに設定された値よりもその値が優先されます。

デッドタイム間隔が 0 分の場合、TACACS+ サーバがサーバグループの一部でグループのデッドタイム間隔が 0 分を超えていない限り、TACACS+ サーバモニタリングは実行されません。

TACACS+ を設定する前に、**feature tacacs+** コマンドを使用する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例** 次に、デッドタイム間隔を設定して、定期的なモニタリングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# tacacs-server deadtime 10
```

次に、デッドタイム間隔をデフォルトに戻して、定期的なモニタリングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# no tacacs-server deadtime 10
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>deadtime</b>	非応答 TACACS+ サーバをモニタリングするデッドタイム間隔を設定します。
<b>show tacacs-server</b>	TACACS+ サーバ情報を表示します。
<b>feature tacacs+</b>	TACACS+ をイネーブルにします。

# tacacs-server directed-request

ログイン時にユーザが認証要求を特定の TACACS+ サーバに送信できるようにするには、**tacacs-server directed-request** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**tacacs-server directed-request**

**no tacacs-server directed-request**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** 設定した TACACS+ サーバグループに認証要求を送信します。

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール** network-admin  
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** TACACS+ を設定する前に、**feature tacacs+** コマンドを使用する必要があります。

ユーザは、ログイン中に `username@vrfname:hostname` を指定することができます。vrfname は使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; VPN ルーティングおよび転送) 名で、hostname は設定した TACACS+ サーバ名です。ユーザ名が認証用にサーバ名に送信されます。



**(注)** 指定要求オプションをイネーブルにする場合、NX-OS デバイスは認証用に RADIUS 方式のみを使用し、デフォルトのローカル方式を使用しません。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例** 次に、ログイン時にユーザが認証要求を特定の TACACS+ サーバに送信できるようにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# tacacs-server directed-request
```

次に、ログイン時にユーザが認証要求を特定の TACACS+ サーバに送信できないようにする例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# no tacacs-server directed-request
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show tacacs-server directed request</code>	指定要求 TACACS+ サーバ コンフィギュレーションを表示します。
<code>feature tacacs+</code>	TACACS+ をイネーブルにします。

# tacacs-server host

TACACS+ サーバ ホスト パラメータを設定するには、コンフィギュレーション モードで **tacacs-server host** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
tacacs-server host {hostname | ipv4-address | ipv6-address}
[key [0 | 7] shared-secret] [port port-number]
[test {idle-time time | password password | username name}]
[timeout seconds]
```

```
no tacacs-server host {hostname | ipv4-address | ipv6-address}
[key [0 | 7] shared-secret] [port port-number]
[test {idle-time time | password password | username name}]
[timeout seconds]
```

## シンタックスの説明

<i>hostname</i>	TACACS+ サーバの Domain Name Server (DNS) 名。名前は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 256 です。
<i>ipv4-address</i>	A.B.C.D フォーマットの TACACS+ サーバの IPv4 アドレス
<i>ipv6-address</i>	X:X:X::X フォーマットの TACACS+ サーバの IPv6 アドレス
<b>key</b>	(任意) TACACS+ サーバ用の共有秘密鍵を設定します。
<b>0</b>	(任意) TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する、クリア テキストで指定された事前共有鍵 (0 で表示) を設定します。これがデフォルトです。
<b>7</b>	(任意) TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する、暗号文で指定された事前共有鍵 (7 で表示) を設定します。
<i>shared-secret</i>	TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する事前共有鍵。事前共有鍵は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 63 です。
<b>port port-number</b>	(任意) 認証用の TACACS+ サーバのポートを設定します。範囲は 1 ~ 65535 です。
<b>test</b>	(任意) テスト パケットを TACACS+ サーバに送信するようにパラメータを設定します。
<b>idle-time time</b>	(任意) サーバをモニタリングするための時間間隔を分数で指定します。時間の範囲は 1 ~ 1440 分です。
<b>password password</b>	(任意) テスト パケット内のユーザ パスワードを指定します。パスワードは、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 32 です。
<b>username name</b>	(任意) テスト パケット内のユーザ名を指定します。ユーザ名は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 32 です。
<b>timeout seconds</b>	(任意) TACACS+ サーバへの再送信 TACACS+ サーバタイムアウト期間 (秒単位) を設定します。有効範囲は 1 ~ 60 秒です。

## デフォルト

アイドル時間は、ディセーブルです。

サーバ モニタリングは、ディセーブルです。

タイムアウトは、1 秒です。

テスト ユーザ名は、test です。

テスト パスワードは、test です。

## ■ tacacs-server host

**コマンドモード**      グローバル コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール**      network-admin  
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン**      TACACS+ を設定する前に、**feature tacacs+** コマンドを使用する必要があります。  
アイドル時間間隔が 0 分の場合、TACACS+ サーバの定期モニタリングは実行されません。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例**      次に、TACACS+ サーバ ホスト パラメータを設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# tacacs-server host 10.10.2.3 key HostKey
switch(config)# tacacs-server host tacacs2 key 0 abcd
switch(config)# tacacs-server host tacacs3 key 7 1234
switch(config)# tacacs-server host 10.10.2.3 test idle-time 10
switch(config)# tacacs-server host 10.10.2.3 test username tester
switch(config)# tacacs-server host 10.10.2.3 test password 2B9ka5
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show tacacs-server</b>	TACACS+ サーバ情報を表示します。
	<b>feature tacacs+</b>	TACACS+ をイネーブルにします。

# tacacs-server key

グローバル TACACS+ 共有秘密鍵を設定するには、**tacacs-server key** コマンドを使用します。設定した共有秘密鍵を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**tacacs-server key** [0 | 7] *shared-secret*

**no tacacs-server key** [0 | 7] *shared-secret*

## シンタックスの説明

<b>0</b>	(任意) TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する、クリア テキストで指定された事前共有鍵を設定します。これがデフォルトです。
<b>7</b>	(任意) TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する、暗号文で指定された事前共有鍵を設定します。
<i>shared-secret</i>	TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する事前共有鍵。事前共有鍵は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 63 です。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

## サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

TACACS+ 事前共有鍵を設定して TACACS+ サーバに対してデバイスを認証する必要があります。鍵の長さは 63 文字に制限されており、出力可能な ASCII 文字の使用が可能です (空白文字は使用できません)。グローバル鍵を設定して、デバイスにあるすべての TACACS+ サーバ コンフィギュレーションで使用するようにできます。**tacacs-server host** コマンドで **key** キーワードを使用することでこのグローバル鍵の割り当てを上書きできます。

TACACS+ を設定する前に、**feature tacacs+** コマンドを使用する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、TACACS+ サーバ共有鍵を設定する例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# tacacs-server key AnyWord
switch(config)# tacacs-server key 0 AnyWord
switch(config)# tacacs-server key 7 public
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show tacacs-server</b>	TACACS+ サーバ情報を表示します。
<b>feature tacacs+</b>	TACACS+ をイネーブルにします。

# tacacs-server timeout

TACACS+ サーバへの再送信間隔を指定するには、**tacacs-server timeout** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**tacacs-server timeout** *seconds*

**no tacacs-server timeout** *seconds*

<b>シンタックスの説明</b>	<i>seconds</i> TACACS+ サーバへの再送信間隔を秒単位で設定します。有効範囲は 1 ~ 60 秒です。
------------------	---

<b>デフォルト</b>	1 秒
--------------	-----

<b>コマンドモード</b>	グローバル コンフィギュレーション
----------------	-------------------

<b>サポートされるユーザロール</b>	network-admin vdc-admin
----------------------	----------------------------

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b> <b>変更内容</b>
	4.0(1)        このコマンドが導入されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	TACACS+ を設定する前に、 <b>feature tacacs+</b> コマンドを使用する必要があります。 このコマンドには、ライセンスは必要ありません。
-------------------	--

<b>例</b>	次に、TACACS+ サーバのタイムアウト値を設定する例を示します。
----------	------------------------------------

```
switch# config terminal
switch(config)# tacacs-server timeout 3
```

次に、TACACS+ サーバのタイムアウト値に戻す例を示します。

```
switch# config terminal
switch(config)# no tacacs-server timeout 3
```

<b>関連コマンド</b>	<b>コマンド</b> <b>説明</b>
	<b>show tacacs-server</b> TACACS+ サーバ情報を表示します。
	<b>feature tacacs+</b> TACACS+ をイネーブルにします。



# telnet

NX-OS デバイス上に IPv4 による Telnet セッションを作成するには、**telnet** コマンドを使用します。

**telnet** {*ipv4-address* | *hostname*} [*port-number*] [*vrf vrf-name*]

## シンタックスの説明

<i>ipv4-address</i>	リモートデバイスの IPv4 アドレス
<i>hostname</i>	リモートデバイスのホスト名。名前は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 64 です。
<i>port-number</i>	(任意) Telnet セッションのポート番号。範囲は 1 ~ 65535 です。
<i>vrf vrf-name</i>	(任意) Telnet セッションで使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; VPN ルーティングおよび転送) 名を指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。

## デフォルト

ポート 23  
デフォルト VRF

## コマンドモード

任意のコマンドモード

## サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**telnet server enable** コマンドを使用して Telnet サーバをイネーブルにする必要があります。

IPv6 アドレスで Telnet セッションを作成するには、**telnet6** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、IPv4 アドレスで Telnet セッションを開始する例を示します。

```
switch# telnet 10.10.1.1 vrf management
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear line</b>	Telnet セッションを消去します。
<b>telnet6</b>	IPv6 アドレスで Telnet セッションを作成します。
<b>telnet server enable</b>	telnet サーバをイネーブルにします。

# telnet server enable

Virtual Device Context (VDC) の Telnet サーバをイネーブルにするには、**telnet server enable** コマンドを使用します。Telnet サーバをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**telnet server enable**

**no telnet server enable**

**シンタックスの説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** イネーブル

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション

**サポートされるユーザロール** network-admin  
vdc-admin

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例** 次に、Telnet サーバをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# telnet server enable
```

次に、Telnet サーバをディセーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# no telnet server enable
XML interface to system may become unavailable since ssh is disabled
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show telnet server</b>	SSH サーバ鍵の情報を表示します。

# telnet6

NX-OS デバイス上に IPv6 による Telnet セッションを作成するには、**telnet6** コマンドを使用します。

**telnet6** {*ipv6-address* | *hostname*} [*port-number*] [**vrf** *vrf-name*]

## シンタックスの説明

<i>ipv6-address</i>	リモートデバイスの IPv6 アドレス
<i>hostname</i>	リモート デバイスのホスト名。名前は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 64 です。
<i>port-number</i>	(任意) Telnet セッションのポート番号。範囲は 1 ~ 65535 です。
<b>vrf</b> <i>vrf-name</i>	(任意) Telnet セッションで使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; VPN ルーティングおよび転送) 名を指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。

## デフォルト

ポート 23  
デフォルト VRF

## コマンドモード

任意のコマンドモード

## サポートされるユーザロール

network-admin  
vdc-admin

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(2)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**telnet server enable** コマンドを使用して Telnet サーバをイネーブルにする必要があります。

IPv4 アドレスで Telnet セッションを作成するには、**telnet** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、IPv6 アドレスで Telnet セッションを開始する例を示します。

```
switch# telnet6 2001:0DB8:0:0:E000::F vrf management
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear line</b>	Telnet セッションを消去します。
<b>telnet</b>	IPv4 アドレスで Telnet セッションを作成します。
<b>telnet server enable</b>	telnet サーバをイネーブルにします。

# time-range

時間の範囲を設定するには、**time-range** コマンドを使用します。時間の範囲を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**time-range** *time-range-name*

**no time-range** *time-range-name*

<b>シンタックスの説明</b>	<i>time-range-name</i> 時間の範囲名。範囲名では最大で 64 文字の英数字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。
------------------	---

<b>デフォルト</b>	なし
--------------	----

<b>コマンド モード</b>	グローバル コンフィギュレーション
-----------------	-------------------

<b>サポートされるユーザロール</b>	network-admin vdc-admin
----------------------	----------------------------

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b> <b>変更内容</b>
	4.0(1)        このコマンドが導入されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	このコマンドには、ライセンスは必要ありません。 IPv4 ACL では、 <b>permit</b> および <b>deny</b> コマンドで時間の範囲を使用できます。
-------------------	--

<b>例</b>	次に、 <b>time-range</b> コマンドを使用して、時間範囲のコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。
----------	--

```
switch# config t
switch(config)# time-range workweek-vpn-access
switch(config-time-range)#
```

<b>関連コマンド</b>	<b>コマンド</b> <b>説明</b>
	<b>absolute</b> 特定の開始日時を持つ時間範囲を指定します。
	<b>deny (IPv4)</b> IPv4 拒否規則を設定します。
	<b>periodic</b> 1 週間に 1 回または複数回アクティブである時間の範囲を指定します。
	<b>permit (IPv4)</b> IPv4 許可規則を設定します。